

つくばね vol.27no.3

● 目次

- 1 視覚障害者の図書館利用について
- 4 明治の理科教科書と「理科」の出現
- 6 図書館情報大学実習生 実習体験記
- 8 シリーズ・電子図書館の現状③
- 10 Ask Us としょかんミニガイド
- 11 本学教官寄贈著書紹介
- 12 とびっくす
- 14 掲示板

視覚障害者の図書館利用について

中田 英雄

視覚障害とは？

視力の低い人たちは多数いますが、その多くは眼鏡をかけるとはっきりと物が見えます。一方、眼鏡をかけたり、眼の手術をしたりなどいろいろな処置をしても視力の回復しない人たちがいます。このような人の中には、明暗がまったくわからない人、光の有無がわかる人、眼の前で指の数がわかる人、普通の活字や文字が読めない人、直接読めないので大きな活字に拡大する人、特別なレンズや補助具を用いる人がいます。視覚障害者とよばれる人たちです。視覚障害者と一口に言っても、日常生活で点字や白杖を用いる盲人（視力

0.02未満）と新聞の文字の読みや歩行などに困難をとまなうロービジョン（Low vision）あるいは弱視とよばれる人（視力0.04以上0.3未満）がいます。ロービジョンの人の中には、視野が狭かったり、視野の一部が欠けていたりする人もいます。したがって、視覚障害者が近くの物や遠くの物を見たり、識別したりすることは大変困難です。まして図書館のような広い空間の位置関係や配架の状況を把握し、自力で目的の場所に行き着くことは大変困難です。配架されている場所に到着しても、頭上にある書名や雑誌名を読むことはできません。このような視覚障害者に利用しやすい図書



館について考えてみます。

1) 出入り口

点字ブロックの上に自転車などの障害物があると、進路を妨害することになります。車輪に白杖が巻き込まれて、白杖が折れることもあります。階段に鮮やかな色のテープなどが貼ってあるとロービジョンの人は安心して歩けます。

2) 入・退館ゲート

係の人は、視覚障害者が入館したときはゲートまで案内し、入口と出口のゲートの位置関係と、身分証明書をゲートに提示する位置を具体的に指示することが大切です。入口のゲートは「そこ」にありますとか、出口ゲートは「あちら」にありますと言われてもわかりません。「あちら」、「そちら」、「それ」などの代名詞を使わないようにしましょう。

3) 利用案内

点字で作成された利用案内や大きめの活字で印刷された利用案内があると便利です。点図で図書館の構造の概略が描かれているとなおよいでしょう。係の人から図書館の構造や配架の状況を口頭で説明されても、すぐには理解できないのです。

4) 受付時の対応

受付時の接し方がその図書館の視覚障害者に対するサービスの質を決定することが多いようです。このときに受けた印象が再訪するかどうかの判断の目安になるといっても過言ではありません。白杖をもった人やロービジョンの人の案内の仕方を知っておくことも大切です。絶対に白杖をつかんで案内しないでください。案内する人は視覚障害者の左側に立ち、右腕を直角に曲げ、その

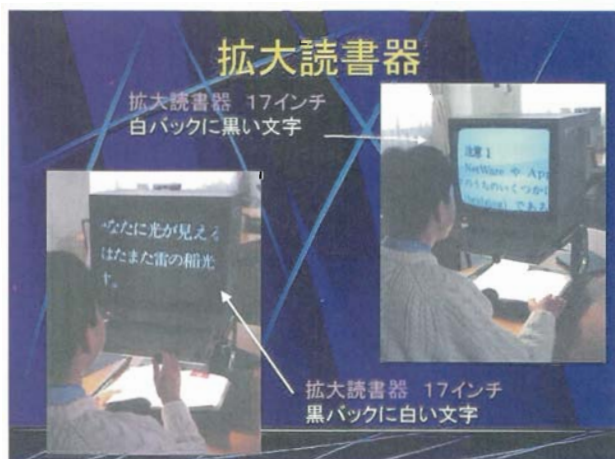
肘を視覚障害者に軽く握ってもらいます。歩きながら、右手には何があり、左手には何がありますと館内の設備、非常口やトイレの位置、利用者の様子、雰囲気などを説明してあげましょう。これで視覚障害者はおおまかに館内の様子を把握することができます。コピー機の配置やコピーの仕方、エレベーターの位置についても説明するとよいでしょう。エレベーターの行き先階や到着階が音声で伝えられると便利です。

5) 文献検索と支援テクノロジー

点字使用者はコンピュータを使うときに音声合成装置を併用しています。画面の文字を読み上げるソフトウェアは、点字使用者には不可欠です。少なくとも文献検索用コンピュータの1台に音声合成装置を備えるべきでしょう。入手した文献はその場で読みたいものです。依頼があったら点字使用者が入手した文献を一部分でも代読してあげましょう。コンピュータ利用の手引きも点字で作成してあるとよいでしょう。また、ロービジョンの人には画面を任意に拡大できる装置を備えたコンピュータが必要です。ロービジョンの人のために拡大文字で作成された利用の手引きも備えるとよいでしょう。本を配架先で見つけ、その場で読もうとしても薄暗くて読めないことがしばしばあります。書架の近くに照明スタンドがあると便利です。また、館内の各階に拡大読書器や視覚補助具（拡大鏡など）が備えてあるとよいでしょう。このような設備があると高齢者も助かります。拡大読書器を用いると文字をある大きさまで拡大することができると同時に、黒色の文字を白色にし、背景の白色を黒色にすることもできます。ロービジョンの人の一部にはこの状態で読んでいる人がいます。別室に点字使用者のためのコンピュータやロービジョンの人のための拡大装置を備えたコンピュータが整備されているとなおよいでしょう。図書館利用の機会均等を図るために視覚障害者用の支援テクノロジーを整えるべきだと思います。筑波技術短期大学視覚部の図書館は参考になります。

6) 館内案内板

視覚障害者には、館内にある案内表示は見にくいもののひとつです。薄暗いところに設置してあ



ったり、点字表記がなかったり、文字が小さすぎたり、頭上に設置してあったりするとお手上げです。案内の表示にも入念なデザインと心配りが必要です。

7) 点字毎日新聞

視覚障害者のための新聞が週1回毎日新聞社から発行されています。これはわが国で唯一の点字新聞です。点字毎日新聞には、一般のニュースのほかに視覚障害者に関する内外の記事が掲載されています。視覚障害者にとって点字毎日新聞は、世界の出来事を整理された情報として入手できる貴重なメディアです。点字使用者のために点字毎日新聞を用意すべきでしょう。また、点字毎日新聞の活字版も同時に発行されています。ロービジョンの人だけでなく視覚障害者の教育やリハビリテーションに関係する大学院生や教官などにも役立つ情報がありますので、これも用意すべきだと思います。

8) 文献複写申込用紙

点字使用者は、文献複写申込用紙に直接記入することはできないので、代筆してもらうことになります。代筆の依頼があった場合は、気持ちよく応じてほしいものです。ロービジョンの人の中にも申込用紙に記入することが困難な人がいます。用紙の狭い空白を埋めることができないのです。銀行や郵便局の振込用紙も同じです。大きめの申込用紙があると便利です。文献到着のお知らせはe-mailでサービスしてほしいと思います。申込用紙に特別な支援が必要かどうかを記載する欄があるとよいでしょう。コンピュータ画面から文献複写の申込みができるようになると便利だと思います。

9) リーディング・サービス

入手した文献を点訳するには相当の日数を要します。点字使用者は手にした文献をその場ですぐに読めないのです。点字使用者の目となってくれる人の支援が必要です。そのためにも対面朗読システムを充実する必要があります。対面朗読のほかにテープレコーダーに録音する方法もあります。ロービジョンの人にもこのリーディング・サービスが必要です。文献の全文とはいいませんが、目次や抄録だけでも読んでもらうと助けになります。

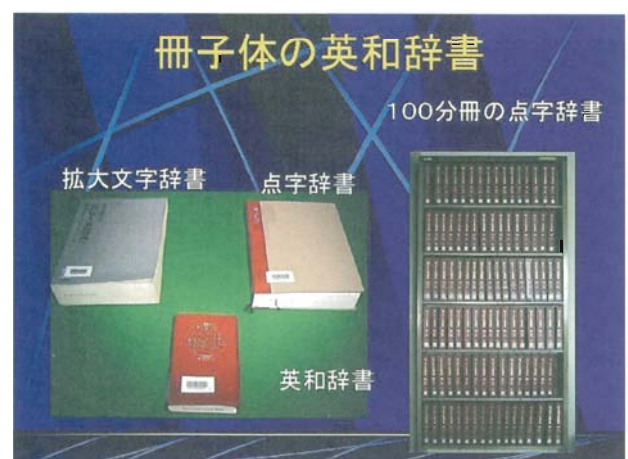
10) バリアフリー図書館

視覚障害者は社会的バリア、情報のバリア、物理的バリア、制度のバリアに直面しているといわれます。図書館にもこれと似たようなバリアはないでしょうか。制度のバリアは、規則のバリアと言い換えてもいいでしょう。バリアを完全に解消することは困難ですが、それに向かって努力することが大切です。ある視覚障害者は、「図書館の担当者に改善してほしいと申し出ても一向に改善されないの、二度とその図書館を利用しませんでした。極端かもしれませんが、視覚障害者が怪我をしたり、命を落としたりしないと環境は変わらないのです・・・。」と語ってくれました。

物理的なバリアを解消し、最新の支援テクノロジーを導入したからといって、視覚障害者の直面するバリアが解消されるわけではありません。最も重要な点は、視覚障害者のニーズを考慮した対人サービスにあると思います。思いやりのあるサービスが大切です。一方で、視覚障害者の自助努力も必要です。バリアにくじけないで図書館を利用し、現有の施設・設備・サービスを有効に活用してほしいと思います。改善点があれば率直に申し出るべきです。関係者は視覚障害者の意見に耳を傾けてほしいと思います。

コンサイス英和辞典を点訳するとB5判で何冊になるかご存知ですか。100冊になります。今は、コンピュータ内蔵の辞書が利用されています。100冊の点字辞書には、視覚障害者の学問に対する強い欲求と苦勞がこもっているようです。

(なかた・ひでお 心身障害学系助教授)



(筑波技術短期大学視覚部
村上佳久先生提供図版)



明治の理科教科書と「理科」の出現

大高 泉

本学の図書館には明治時代の教科書が1万5千冊余りあるという。これだけをとっても全国有数の教科書コレクションであることには違いない。しかし、理科教育史研究からいえば、所蔵冊数の多さばかりではない。本学の図書館は、明治の理科教科書が下敷きになっている原本の欧米の教科書とその背後にある理科教育の理論書も多数所蔵しているのである。これらもセットにした理科教科書コレクションの研究上の価値には計り知れないものがある。この点は、国語教育史、社会科教育史とは若干事情が異なるかもしれない。

周知のように日本には近代科学が誕生しなかった。その日本が近代科学を本格的に導入したのは明治になってからである。これに呼応して学校教育としての科学教育もまた明治に入ってから始まった。伝統のない科学の教育とその教科書は、欧米の科学教育とその教科書と無関係には成立しえなかったのである。

ところで、教科「理科」の出現とそれに伴ういくつかの変化についての解釈を巡って、理科教育史研究には根本的な論点がある。しかも、この論点は、日本の理科教育の原型の形成にかかわる重要なものであるだけに、理科教育史研究者の関心を長らく惹きつけてきた。だが未だに、明快な決着が付いているとは言いがたい。

科学教育は明治5年の「学制」下の「小学教則」の中で初めて導入された。そこには、自然科学関係の教科名として、「物理学論議」、「博物」、「化学」、「生理」等が挙げられている。ところが、関

連の学問名を容易に連想させるこれらの教科名と違って、明治19年の「小学校令」下の「小学校の学科及びその程度」の中に「理科」という新しい教科が出現したのである。しかも、これは新しい教科名の誕生以上のものであった。前述の「小学校教則」のなかでは、自然科学関係の教科は、第2学年から始まり全授業時数の15%を占めていたのに対して、「理科」は、週あたりわずかに2時間、しかも第5学年から教えられることになってしまった。確かに自然科学関係教科の配当授業時数の減少傾向は、すでに明治14年の「改正教育令」下の「小学校教則綱領」にも現れていたが、「理科」の授業時数はまさしく激減したのであった。授業時数の激減ばかりではない。教育内容も激変したのである。「小学校教則綱領」では、例えば物理の教育内容が次のように定められていた。

「物理は中等科に至ってこれを課し、物性・重力等より始め、漸次水・気・熱・音・光・電気・磁気の初歩を授くべし、凡そ物理を授くるには、務めて単一の器械及び近易の方便に依り実地試験を施し、その理を了解せしめんことを要す。」

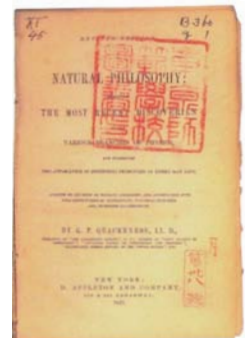
これに対して、「小学校の学科及びその程度」の「理科」の項は次の通りである。

「理科は、梁実、穀物、菜蔬、草木、人体、禽獸・虫魚・金銀、銅鉄等、人生に最も近接の関係にあるもの。日月、星、空気、温度、水蒸気、……蒸気器械、眼鏡、色、虹、天秤、磁石、電信機等、日常児童の目撃しうる所のもの。」

つまり、「小学校教則綱領」では、物理の項が示しているように、「科学の初歩」を教えることになっていたのに、「理科」では、「科学そのもの」ではなく、生活に関係深く日常児童が目撃しうる自然の事物・現象と技術的所産に関する個別の知識が教えられるこ



『物理階梯』と彙集力教材



“Natural Philosophy”

とになったのである。

「理科」出現に伴うこれらの変化、つまり授業時数が激減し体系的な科学の教育から日常的な雑多な知識の教育への変化は何に起因するのであろうか。代表的な見解が二つある。一つは、従順な人間の養成を目指す国家主義的な教育方針のもとでは、科学的な自然観や合理的な考え方の養成を目指す科学の教育は危険と見なされたから、というものである。今一つは、科学の教育が危険視されたからではなく、小学生という発達段階や当時の教育事情に合わせたからである、というものである。このような見解の相違は未だに続いており、現在でも「科学教育」と「理科教育」とが明確に区別されて使われることもある。

さて「理科」出現から5年後の明治24年には「小学校教則大綱」が制定され、その中で「理科の要旨」が次のように明確に規定された。

「理科は、通常の天然物・及び現象の観察を精密にし、其の相互・及び人生に対する関係の大意を理解せしめ、兼て天然物を愛する心を養うを以て要旨とす。」

「理科」についてのこの性格規定は、その後昭和16年の「国民学校令施行規則」に至るまでのおよそ50年間基本的に続き、日本の理科教育の原型を形成した。「天然物を愛する心を養う」という目標は、欧米の科学教育の目標と比べても独自の位置を占めるが、現在でも小学校の理科の目標の主要な柱になっている。平成14年度から実施される小学校新学習指導要領理科編の目標にも、「自然を愛する心情を育てる」とある。指摘するまでもなく、「自然を愛する心情」は、学問としての科学の内容ではあり得ない。

無論、こうした明治期の理科教育の転換は、教科書にもつづさに見て取ることができる。「科学教育」の教科書の典型が、明治5年に文部省が編集発行した小学校用の教科書『物理階梯』である。小学校用ではあったが、師範学校の教科書としても用いられ、すでに明治7年には10万部弱も普及したと言われている。この教科書には著しい特徴がある。この教科書の原本は、R.G.Parker; First Lesson in Natural Philosophyであるが、この原本よりも『物理階梯』の方がはるかに多く「物性論」



『新撰理科書』と電信機教材 “Dorfteich als Lebensgemeinschaft”

にページを割いているのである。更に改正増補版では、その割合が増している。改正増補版の「物性論」の項は、Quackenbos; Natural Philosophyの翻訳と言われている。「物性論」は近代物理学の物質観を示すもので、原子分子論的物質観が述べられている。「物性論」の重視は、明治初年の「窮理熱」と軌を一にしている。明治初年には、科学啓蒙書の出版ブームが起り、そのほとんどが窮理書、つまり物理学中心の科学書であったところから「窮理熱」とも呼ばれていた。そのねらいは、日本人に近代科学の成果とその威力を示すとともに、理気二元論など儒学的な自然観を打破することにあつた、と言われている。

ところが、「理科」が出現すると、その教科書も明治初期の科学教科書とは全く異なり、「理科」の規定にそつた内容の教科書になった。例えば、出版年が早いところでは、小野太郎編述、『小学理科書』(明治20年)、高島勝次郎編纂、『新撰理科書』(明治21年)がある。これらの内容を『物理階梯』の内容と比較するとその違いは歴然としている。

さて、前述の「理科の要旨」にある、「通常の天然物・及び現象の相互・及び人生に対する関係」の重視は、ドイツのJungeの著書『生活共同体としての村の池』(Dorfteich als Lebensgemeinschaft)に表れた「生活共同体説」の影響である、というのが通説である。しかし、その辺の事情についても、日本科学史学会の機関誌『科学史研究』誌上にこれまでいくつか研究が発表されてはいるものの、必ずしも共通理解が得られているとはいえない。日本の理科教育の原型の形成事情を解明するに当たっても、本学図書館の明治期の教科書コレクションは研究者の垂涎の的なのである。

(おおたか・いずみ 教育学系教授)



図書館情報大学実習生 実習体験記

今年は、9月10日(月)～28日(金)の3週間、図書館情報大学の学生12名が中央図書館で、図書館情報学の実習をしました。



実習生の実習風景

伊豫田 陽祐

今回、筑波大学附属図書館で実習を行い、最も自分にとってプラスになったと思えることは、今まで受けてきた授業の内容が、実際の業務に関係している、ということです。当たり前のことかもしれませんが、今までこう言ったことを実感する機会がなかったので、授業を受けていてもあまり身が入りませんでした。しかし、今回実習を通して授業で習ったことが実際の業務に生かされている事を実感し、これからの学生生活において授業に対する意識を改革することが出来ました。

(いよだ・ようすけ 図書館情報学科3年)

遠藤 夏奈子

筑波大学附属図書館での実習では、私は主に図書サービス係で実習をさせていただきました。図書サービス係ではカウンター業務の他に図書館内の整備や膨大な量の図書の管理も行っていました。増え続ける蔵書の整理や配架に人手も追いつかないようでした。図書館での業務システムや、大学図書館が抱えている問題を身近に感じ、日頃勉強している図書館情報学により一層理解を深めることができ、良い経験をする事ができました。本当にありがとうございました。

(えんどう・かなこ 図書館情報学科3年)

川越 名月

実習では、職場として図書館を見ることがで

き、大変よい経験になりました。目録コース・和書データベース係で、適及入力を中心とした作業をしました。慎重さが必要で、責任を感じました。カウンター業務にも少し携わりましたが、学外の利用者の多さに驚くと共に、図書館の必要性も実感しました。どの係にいても、資料の扱いの難しさと、利用者への配慮が印象に残りました。丁寧な仕事を利用しやすい図書館の実現につながると思いました。

(かわごえ・なつき 図書館情報学科3年)

坂井 華奈子

図書館について学びながら、今までは実際には利用する側からしか見ていなかったものが、今回の実習を通して、サービスをする側の視点を知り、改めて図書館業務の奥深さを実感しました。授業で身につけた知識が実際に生かされている所を見るのはもちろん嬉しかったけれど、それ以上に教科書には載っていない様なことも多く、とても有意義な体験をさせていただきました。利用者の方に満足してもらえるサービスを提供するのは大変だけれどやりがいのある仕事だと思えました。

(さかい・かなこ 図書館情報学科3年)

酒井 美由紀

私が今回の実習を終えて強く感じたのは、「図書館の仕事は聞くとやるとでは大違い」ということだ。授業で図書館の仕事については大抵知っているつもりだったが、実際の作業ではそれらとのギャップに度々戸惑った。つまり、「やらなければわからない」ことを経験でき、とてもためになったと思う。これからは、この学習で学んだことを自分の将来に生かしていきたい。最後になりましたが、実習先でお世話を下さった皆様、本当にありがとうございました。

(さかい・みゆき 図書館情報学科3年)

渋谷 敬子

今回の図書館実習では、現場ならではの数々の知識を得ることが出来た。目録コースでの作業においては、後々利用においてトラブルが起こるこ

との無い様、正確なデータの作成のために、いかに慎重な作業を行なわねばならないかということ、また、洋書において各国におけるデータ記述の違い等の知識も必要だということなどを知った。

熱心に指導していただいた職員の方々、多くの貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(しぶや・けいこ 図書館情報学科3年)

白川 里美

今回の実習では、授業で得る物の他に、実際の図書館のシステムを用いての実習やセルフリーディングなど、作業の多くが実際の現場でなければ体験できないものであり、有意義なものであった。また、思っていた以上に体力勝負である事も知ることが出来た。他にもセルフリーディングなどで、本を正しい場所に戻すなど、今まで利用するだけではあまり気に留めなかった小さな点に気づくことが出来た。図書館職員はその小さな点に注意しサービスしていくことが必要であることを実感した。

(しらかわ・さとみ 図書館情報学科3年)

清井 悠祐

今回の実習では、主に雑誌のサービスについて学ばせて頂きました。当たり前のことかも知れませんが実際に体験して初めて、いかに図書館という組織が、地味な業務の一つ一つによって成り立っているかということが分かりました。セルフリーディング等の、そういった地味で大切な業務のいくつかに携わりましたが、色々体験させて頂けたお陰で毎日が新鮮で楽しかった事がとても印象に残っています。今回の実習は自分にとって非常に意義深いものでした。

(せいじい・ゆうすけ 図書館情報学科3年)

長谷川 さやか

今回の実習で一番楽しみにしていたのは、電子図書館についての業務だった。これまで講義などで様々な機関の電子図書館やOPACを使い、それについての考察も行ってきたが、構築している側から見る機会がなかったのだ。

全文資料の取り込みからファイルの分割までを見学させて頂き、地道な作業が不可欠だと実感させられた。画像ファイルは、解像度を高くすると

容量も大きなものになってしまうため、これからも改善の必要があるように感じた。

(はせがわ・さやか 図書館情報学科3年)

福島 陽子

今回の実習では、主に目録に関する仕事をさせていただきました。目録作業では、利用者と接する機会はありませんが、正確な目録を丁寧に作り、利用者に図書館サービスを提供する大切な業務だと思います。利用者の立場からは、カウンター業務やレファレンス業務等しか目にすることがなかったのですが、図書館を運営する立場から実際の図書館現場を見ることができたことはとても貴重な体験だったと思います。職員の方々には本当にお世話になりました。

(ふくしま・ようこ 図書館情報学科3年)

山本 佳奈子

私が今回の実習で学んだことは、普段大学の授業で学んでいることが図書館でどのように役立つのかということと図書館で働くことへのやる気でした。これまでただ詰め込んできただけの知識も実習をすることでどの程度大事なことなのかわかりました。そして図書館の方々の親切で丁寧なご指導のおかげでこれまで漠然としていた司書への夢がより強いものになり、楽しく充実した3週間を送ることができました。この3週間は私の大学生活の中で大変貴重な時間であったと思います。

(やまもと・かなこ 図書館情報学科3年)

脇野 昌太郎

今回の実習で、私はカウンター周りを中心に図書館の実際の業務を体験させて頂きました。直接、図書館の利用者とふれあう機会が多かったこともあって、図書館の業務がサービス業であることを強く感じました。一方で、利用者の目に触れない仕事も体験させて頂いて、そういった仕事があっただけで初めて図書館という組織が成り立っていることを実感しました。そして何より貴重だったのは、実際の職員の方々に現場の話の話を伺うことが出来たことだと思います。充実した3週間で過すことが出来ました。

(わきの・しょうたろう 図書館情報学科3年)



シリーズ・電子図書館の現状 (3)

高精細画像

筑波大学附属図書館では電子図書館機能のひとつとして、現在高精細画像の提供を行なっています。

高精細画像で提供されている資料の種類は、基本的に貴重書及びそれに類するものを中心として構成されています。貴重書類を高精細画像として提供する主な目的としては、

- 1 門外不出の資料の公開
- 2 遠隔地からの簡便な利用
- 3 画像の拡大縮小機能による閲覧のしやすさ
- 4 貴重資料の保存

などが挙げられます。

1と4に見られるように、貴重資料そのものを閲覧するためには閲覧の申請を行なう必要があり、また、閲覧時にも慎重な取扱いが要求されることにもなります。資料をデジタル化することでより簡便に情報に接することができ、長期の保存にも役立たせようというものです。

またデジタル化した情報をネットワークを通じて提供することにより、2に挙げたように直接来館することなく遠隔地から利用することが可能になります。

1 高精細画像の提供形式

筑波大学の電子図書館で提供している高精細画像は主に画像フォーマットの一形式であるFlashPix形式を中心としています。

FlashPix形式は階層的に複数解像度を持ち、各階層の画像をタイル状に分割して管理する画像フォーマットです。そのため、高品質の画像を短時間で表示でき、拡大しても画質が低下しないという特徴を持っています。

FlashPix形式に変換する前の元画像はtiff形式であり、約1GBにもなります。FlashPix形式とすることで画像のデータサイズを圧縮することができ、元画像の質をできる限り下げることなく提供しています。

それでもなお数十MBほどのデータサイズとなりますがFlashPixの利点として、一度に画像のすべてを閲覧しているコンピュータに転送せず、指定した必要な部分のみ段階的に拡大してゆけることが挙げられます。具体的には縮小された全体の画像(図1)の中から特定のポイントを選択します。そしてその指定の都度(図2)ポイント周辺の画像(図3)データのみを転送するため、

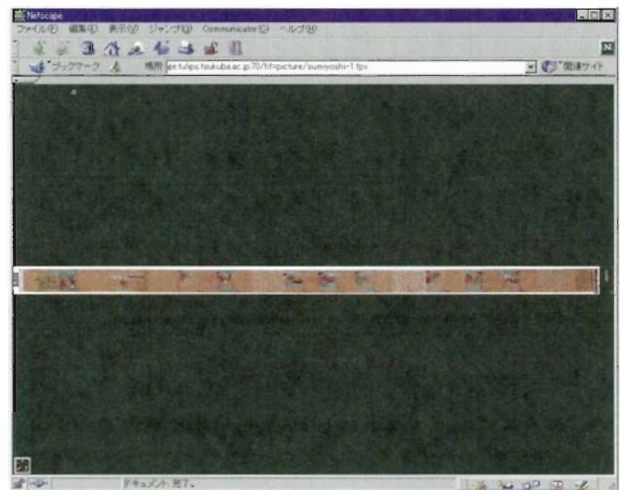


図1 FlashPixプラグインで表示させたところ

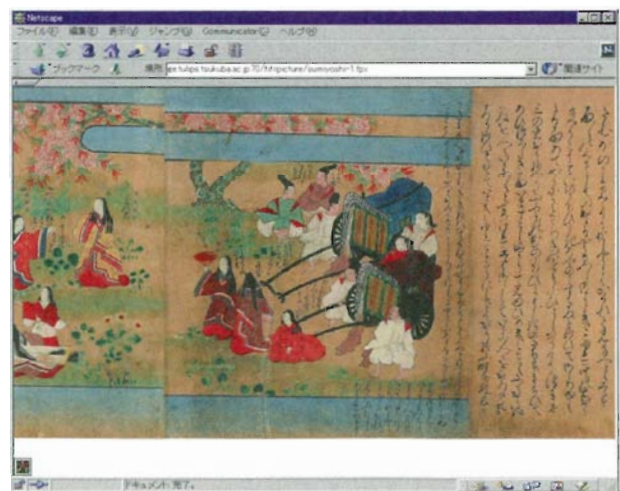


図2 少し拡大させたところ



図3 拡大したところ

ネットワークを經由して遠隔地から表示させる場合も大きなストレスなく利用することができます。

2 高精細画像の保存方法

画像の保存は重要なテーマですが、中でも順序が存在します。

基本的にネットワークで提供している Flash-Pix 形式よりもその元となる tiff 形式の画像の保存を重視しています。データは CD-R に書き込んで保存しています。さらに言えば、tiff 形式の画像よりその元となった 8×10 インチ、4×5 インチ、35 mm カラーマイクロなどのカメラで撮影したフィルムの方が重視されます。

その理由としては現在提供している FlashPix 形式も時代の変化によりもっと別な形式に変更されてゆくことが考えられること、フィルムをスキャニングした際の画像形式は劣化のない tiff 形式が適当であるが、スキャニングの技術の向上なども考慮に入れるとフィルムがもっとも基本的に重視されるべきものということになります。

逆に言えば、フィルム以前の状態、つまり貴重書を何度も撮影しなければならなくなる事態は避けるよう心がけています。

3 現在提供している高精細画像

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tree/kichosho.html>

から閲覧することができます。

主に以下のような資料があります。

資料名

- 住吉物語絵巻 (上)
- 住吉物語絵巻 (下)
- 大智度論
- 山東黄河全図
- 難波津之図
- 日本図
- 教育錦絵
- 歴聖大儒像 (周子)
- 歴聖大儒像 (程伯子)
- 歴聖大儒像 (程叔子)
- 歴聖大儒像 (張子)
- 歴聖大儒像 (邵子)
- 歴聖大儒像 (朱子)
- 浦風
- 鯨絵
- 田村直翁筆 架鷹図 (右隻)
- 田村直翁筆 架鷹図 (左隻)
- 狩野探幽筆 野外奏楽図
- 狩野探幽筆 猿曳図
- 狩野尚信筆 李白觀瀑図
- 狩野尚信筆 剡溪訪戴図
- 文正草子 (上)
- 文正草子 (下)

もし高精細画像などに関してお気づきの点などございましたら下記までご連絡ください。

※お問い合わせ先：電子情報係 (内線2470)

メールアドレス：voice@tulips.tsukuba.ac.jp



「本学の学位論文の探し方について」

Q：筑波大学の学位論文を探しているのですが。

A：博士論文は、他の図書と同様に蔵書検索で調べることができます。

例えば、著者「石川はじめ」の「禁煙活動を通してみたニコチン依存の要因」が見たい場合は、「石川はじめ」または「禁煙活動 ニコチン」と入力して検索すると、検索結果一覧が表示されます。該当する図書をクリックすると、図書目録情報の所蔵レコードは次のように表示されます。

所蔵

巻号	所在	請求記号	資料ID	資料タイプ	状況	返却予定日	コレクション
	中央	DA02427-1999	J0000003623	本学論文			

図1 博士論文の所蔵レコード

ここで資料タイプが「本学論文」となっているので、博士論文であることがわかります。

博士論文が所蔵されていることを確かめたら、閲覧するのに次の二通りの方法が考えられます。

- ① 図書館で現物を閲覧する
- ② 全文が電子化されている資料ならコンピュータ上で読む

まず、現物を閲覧する場合ですが、博士論文は中央図書館中2階に配架されています。1階の書庫の中にある階段を上って行きますと、黒い表紙で製本された博士論文がまとめて配架されている書架があり、そこで閲覧することができます。配列は学位授与年度毎に番号順になっていますので、必ず請求記号をメモし、その番号で探してください。

次に、全文情報が電子化されている資料には、検索結果一覧、または図書目録情報の左上及び所蔵レコードの左端に、本が並んだ図案のオレンジ色のアイコン、或いは白い四角に「TOC」と書かれたアイコンが付いています。これらは各々全文情報と目次(Table of Contents)情報をデザインしたものです。2つのアイコンがある場合は、まず目次のアイコンをクリックしてみてください。(図2)

表示された目次の中で、読みたい章の全文情報のアイコンをクリックすると、PDF形式の論文全

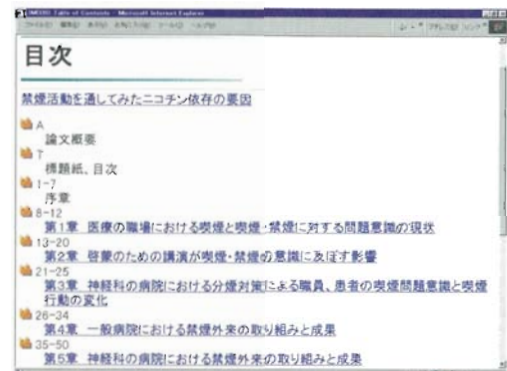


図2 博士論文の目次情報

文を読むことができます。(図3)

検索結果に全文情報のアイコンしかない所蔵レコードの場合は、目次がありませんのでそのアイコンを直接クリックしてください。古い時期の論文は皆この形式で、ファイルの容量が大きいために表示されるまでに時間がかかる場合があります。

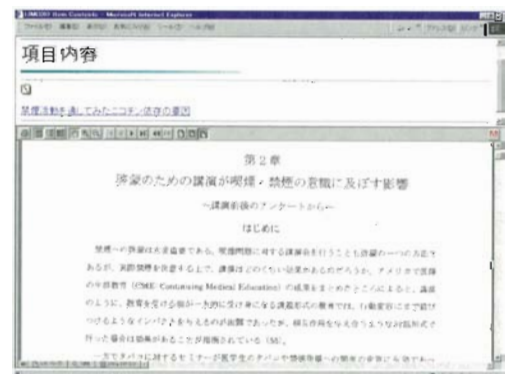


図3 博士論文の全文情報

このように、筑波大学では、現在、約600件の博士論文をコンピュータで読むことができます。

なお、学位論文は、著作権法の規程により、全体の半分以上の複製が可能です。電子化された論文についても同様ですのでご注意ください。また、修士論文及び卒業論文は図書館では所蔵しておりません。

その他、全般的な学位論文の探し方については、図書館のページからリンクが張ってある次のページが大変便利です。是非ご利用ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/dissertation.html>



本学教官寄贈著書紹介

平成13年7月～9月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介いたします。

(敬称略, 寄贈者五十音順, []内は配架場所と配架番号です。)

秋根康之 (臨床医学系)

- ・がん看護マニュアル 改訂版 / 岡崎伸生, 柿川房子責任編集. 学習研究社, 2001 (ナーシング・マニュアル; 第1巻) [医学 492.9-N55]

板井悠二 (臨床医学系)

- ・Hepatobiliary diseases : pathophysiology and imaging / edited by Kunio Okuda ...[et al.] Blackwell Science, c2001 [医学 493.47-O54]

臼山利信 (現代語・現代文化学系)

- ・1997年度高等学校のロシア語科目設置校に関する研究資料. 筑波大学現代語・現代文化学系, 2001 [中央 375.893-U95]
- ・日本の中等教育における英語以外の外国語教育. 東京大学大学院人文社会系研究科米重文樹研究室, 1999 [中央 375.89-U95]

小野 基 (哲学・思想学系)

- ・辞典編纂 No.8 / 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所辞典編纂プロジェクト [編]. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1996 [中央 181-To46]
- ・Prajñākaraguptas Erklärung der Definition gültiger Erkenntnis (Pramānavārttikālamkāra zu Pramānavārttika II 1-7) Teil 1. Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2000 (Sitzungsberichte ; 678) (Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens ; Nr. 34) (Materialien zur Definition gültiger Erkenntnis in der Tradition Dharmakīrtis ; 3) [中央 181-O67-1]

五十殿利治 (芸術学系)

- ・日本のアヴァンギャルド芸術 : <マヴォ>とその時代. 青土社, 2001 [中央, 体芸702.16-O64]

金子 守 (教育学系)

- ・筑波大学附属学校教育研究史・資料目録 A～J, CD-ROM. 筑波大学学校教育部, 2001 [中央 本学, 体芸参考 376-Ts66]

川那部保明 (現代語・現代文化学系)

- ・Écritures France-Japon / études rassemblées et présentées par Yasuaki Kawanabe, Jean-Pierre Giusto, Edmond Nogacki. CAMELIA, c1999 (Recherches Valenciennes ; 1) [中央 704-Ka96]

桜井茂男 (心理学系)

- ・心理学ワールド入門. 福村出版, 2001 [中央 140-Sa47]

清水一彦 (教育学系)

- ・教育と人権. 紫峰図書, 2001 [中央 373.2-Sh49]
- ・大学教育の再生をめざす : FD実践事例に学ぶ. 紫峰図書, 2001 [中央 377.15-Sh49]

竹村牧男 (哲学・思想学系)

- ・唯識のころ : 『観心覚夢鈔』を読む. 春秋社, 2001 (新・興福寺仏教文化講座 ; 4) [中央 188.21-R96]
- ・良寛さまと読む法華経. 大東出版社, 2001 [中央 183.3-Ta63]

田島 裕 (社会科学系)

- ・英米法判例の法理論. 信山社, 2001 (著作集 ; 8) [大塚 320.933-Ta26]

津田幸男 (現代語・現代文化学系)

- ・英語支配の構造. 第三書館, 1990 [中央 830.4-Ts34]
- ・英語支配への異論 : 異文化コミュニケーションと言語問題. 第三書館, 1993 [中央 830.4-Ts34]
- ・英語下手のすすめ : 英語信仰はもう捨てよう. ベストセラーズ, 2000 (ワニのNEW新書; 023) [中央 830.4-Ts34]
- ・侵略する英語反撃する日本語 : 美しい文化をどう守るか. PHP研究所, 1996 [中央 830.4-

Ts34]

- ・日本人と英語：英語化する日本の学際的研究。国際日本文化研究センター，1998（日文研叢書；14）〔中央 830.4-Ts34〕
- ・パターン活用ビジネス英語スピーチ。創元社，1988〔中央 837.8-Ts34〕
- ・パターン活用やさしい英語スピーチ。創元社，1994〔中央 837.8-Ts34〕
- ・Language inequality and distortion in intercultural communication : a critical theory approach. J. Benjamins Pub. Co., 1986 (Pragmatics & beyond : an interdisciplinary series of language studies ; VII:7)〔中央 801.2-P88-VII-7〕

森岡理右（名誉教授）

- ・白魚よ還れ。霞ヶ浦水質浄化推進振興財団，2001〔中央，体芸，医学 519.4-Mo62〕

山田重郎（歴史・人類学系）

- ・歴史学の現在古代オリエント / 前田徹[ほか] 共著。山川出版社，2000〔中央 228.1-Ma26〕
- ・The construction of the Assyrian empire : a historical study of the inscriptions of Shalmanesar III (859-824 B.C.) relating to his campaigns to the West. Brill, 2000 (Culture and history of the ancient Near East ; v. 3)〔中央 288.1-Y19〕



とひくす

〔学外〕

平成13年度第3回国立大学図書館協議会理事会

10月25日(木)大阪大学附属図書館本館ホールにおいて、大阪大学の当番で開催されました。

〔報告〕○事業計画の実施状況について○国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会報告○国立大学図書館協議会海外派遣者選考委員会報告○特別委員会報告 — ①著作権特別委員会報告②国際情報アクセス特別委員会報告③図書館高度情報化特別委員会報告④電子ジャーナルタスクフォース報告 — ○各地区協議会報告○国公立大学図書館協力委員会報告○日本図書館協会関連報告○その他①国立七大学図書館協議会報告②文献画像電送システムについて③第3回「法人格取得問題に関する附属図書館懇談会」報告

〔協議〕○総会の運営について○第48回総会の理事会付託事項について○グローバルILL/DDの実施のための米国との協議について○SPARC(the Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition)及びISCF(International Scholarly

Communications Forum)への対応について○第49回総会について

第34回関東地区国立大学附属図書館事務

(部・課)長会議

11月9日(金)茨城大学茨苑会館において、茨城大学の当番で開催されました。

〔報告〕○平成13年度第3回国立大学図書館協議会理事会について○第35回関東地区国立大学附属図書館職員研修会について○国公立大学図書館協力委員会の活動について○SD-21サブコンソーシアムについて○国大協電子ジャーナル・タスクフォースの活動について

〔協議〕○電子ジャーナルの導入とコンソーシアムの形成について○附属図書館が関与する情報リテラシー教育のあり方について○国立大学の国立大学法人(仮称)化における附属図書館の中期目標・中期計画について○関東地区国立大学地区行事当番の変更について○平成15年度第50回国立大学図書館協議会総会当番館について

〔学内〕

第240回附属図書館運営委員会（9月開催）

〔審議〕 ○平成14年度雑誌購入について○電子ジャーナルの利用契約について○文献情報データベースの利用契約について

〔報告〕 ○研究図書委員会（第29,30回）○各館委員会報告—体育・芸術図書館委員会（第24回）、医学図書館委員会（第26回）、大塚図書館委員会（第21回）—○各専門委員会報告—蔵書構成専門委員会（第57回）、電子図書館専門委員会（第9回）—○平成13年度研究用人文・社会系基本図書購入について○第48回国立大学図書館協議会総会について○平成13年度特別展について

第241回附属図書館運営委員会（10月開催）

〔審議〕 ○平成15年度概算要求について○「筑波地区図書館と大塚図書館との間における貸出図書等の搬送サービスに関する申合せ」の一部改正について

〔報告〕 ○各館委員会報告○各専門委員会報告○学長裁量経費等について○電子情報経費について

特別展「日本古代の学問と萬葉集」閉幕

附属図書館では10月22日(月)から11月2日(金)まで、哲学・思想学系、文芸・言語学系との共催特別展「日本古代の学問と萬葉集」を開催しました。

これは、10月27日から30日に筑波大学で開かれた萬葉学会全国大会に合わせて企画したもので、

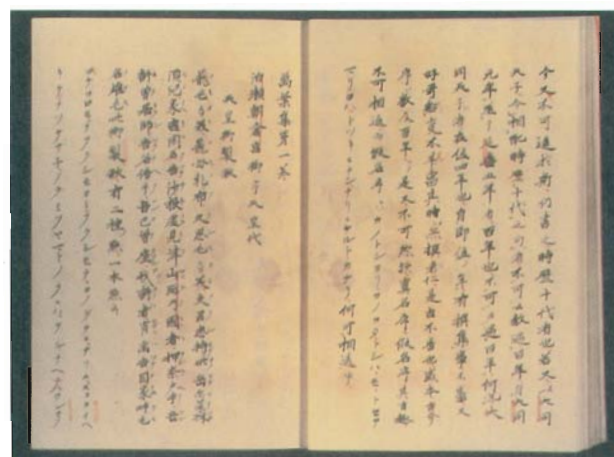


展示品に見入る 北原学長、山内館長、芳賀教授、濱口副学長、岩崎副学長

古代の学問のありようと「萬葉集」の研究史をテーマに附属図書館が所蔵する資料を一般にも広く公開したものです。

12日間の会期中、国語、古典文学等を専攻する本学の学生はもとより、一般の萬葉集愛好者や、書研究者など880名の観覧者が訪れ、盛会のうちに終了しました。

約40点の展示資料は、「日本古代の学問」、「萬葉集」研究の流れ、「写経と仏教教学の世界」の3つの構成のもとに、「萬葉集」が編まれた時代背景を偲び、いにしへの歌人たちの教養の世界を伺い知る興味深い展示となりました。「論語集解」、「萬葉集註釈（仙覚抄）」、「大智度論」、「文字反」など、本学附属図書館が所蔵する貴重書は、全国から集まった萬葉学会関係者にも大変好評を博し、熱心に展示品を鑑賞する姿が印象的でした。



萬葉集註釈（仙覚抄）

平成13年度附属図書館防災訓練を実施

11月30日(金)に、中央図書館において防災訓練を実施しました。

中央図書館新館 1階からの出火を想定し、通報・避難誘導訓練を行いました。その他、筑南消防本部署員の指導のもと、水消火器による消火訓練を行いました。

また、体育・芸術図書館では10月29日(月)、医学図書館では12月14日(金)に避難誘導訓練等を行いました。



指導による消火訓練

掲示板

図書館入口の掲示板リニューアル

今まで図書館入り口の掲示が見にくかったので、このたび図書館利用の際の注意事項を一つのボードにまとめ、その他の臨時閉館やオリエンテーション等その時々のお知らせは別にまとめて掲示することにしました。注意事項については今までは文章のみでしたが、新しい掲示はひと目で内容がわかるように、できるだけ図記号を採用しました。この記号は交通機関や公共施設の案内に使う

ように交通エコロジー・モビリティ財団が関係機関に呼びかけ作成した全国共通の統一図記号です。

また、館内のマナーの悪さについて苦情が多く寄せられていた携帯電話について、その便利さも考慮して、館内掲示文を次のようにしまし

た。「図書館の中では携帯電話の電源は切りましたか？マナーモードにしましたか？着信音や通話は音が響いて他の人の迷惑になります。マナーモードで受信したときも、通話は図書館の外で行い、館内ではメール以外の使用はご遠慮ください。」

その他、模様替えしたところは中央図書館本館2階PACSコーナー前に大型掲示板を設置したことです。中央図書館内には数箇所掲示板がありますが、館内全体にかかわるお知らせは入り口とこの大型掲示板に掲示することにしましたので入館したらまずここをご覧ください。



注意事項のボード



図書館入口の掲示板